

シリーズ●日本再発見④

花見

CHERRY BLOSSOM VIEWING



「桜・花見」という言葉が聞こえるようになると、人の心は一気に明るくなります。
それは、現代に生きる私たちばかりでなく、江戸時代の人も、
1000年以上前の平安時代の人も同じだったようです。
貴族も武士も僧侶も、殿様も庶民も楽しんだ「花見」。
日本人のDNAに深く刻み込まれている「桜」への思いを感じながら、
日本の花見を楽しんでください。

花見

CHERRY
BLOSSOM
VIEWING

日本の春の行事として世界に知られる「花見」。最近では日本の花見を体験するために来日する外国人観光客も増えています。数ある美しい花の中で桜がこんなに愛されるようになったのはなぜなのでしょう。

🌸 花見の歴史

桜は北半球の温帯に広く分布していますが、日本列島にも多くの種類があります。そして、さらに日本人は古くから(室町時代から!)桜の品種改良を行ったため、園芸品種が200以上あります。まさに日本は桜の国。

しかし実は、奈良時代には「花見」というと、その花は桜ではなく梅だったのです。これは、中国文化の影響が強かったからだといわれています。それが、平安時代になって国風文化が盛んになると、貴族が山野に出掛けて桜を愛でたり庭に植えて

鑑賞したりするようになり、「花見」の花は桜になりました。花見の様子は『源氏物語』の中にも出てきます。

その後、花見の習慣は武士や町人にも広まり、各地に桜の名所といわれるところがありました。徳川3代将軍家光が徳川家菩提寺である寛永寺に桜を植樹、8代将軍吉宗が隅田川堤や王子飛鳥山、品川御殿山に桜を植樹したことも影響したのでしょうか。花見は江戸庶民の重要な春のイベントになったのです。そして、江戸時代に賑わった桜の名所には、今も多くの花見客が集まります。



「江戸名所発句合之内 飛鳥山」 国貞改二代目豊国

江戸時代の上野は徳川家の菩提寺である寛永寺をはばかり、三味線や太鼓などの鳴物や飲酒なども禁止され、お行儀のいい花見の場であった。それに対し飛鳥山や隅田川堤はどんちゃん騒ぎができる気楽な花見として庶民に人気があった。

『日本之名勝』より「飛鳥山の桜狩」 瀬川光行 編(史伝編纂所)
明治33年に刊行された旅行ガイドに掲載された飛鳥山の花見風景。



桜の種類とソメイヨシノ

日本に自生する桜には、ヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、カスミザクラなどがあり、2018年には紀伊半島南部で新たな野生種「クマノザクラ」が発見されて話題になりました。

現在、花見の名所でもっともよく見られる品種は「ソメイヨシノ」です。園芸が盛んだった江戸時代には多くの新品種がつけられました。ソメイヨシノもその一つです。これは、エドヒガンとオオシマザクラの雑種が交配されてできたものです。遺伝子研究から、接ぎ木で増やされたクローンであることがわかっていて、江戸駒込染井村（現在の豊島区）の植木職人たちによって栽培されていたので、この

名があります。

ソメイヨシノは花が大きくてたくさんつき、木の成長も早いので、観賞用として日本全国に植えられました。すべての個体がほぼ同じ特徴を持っているので、全国の桜の開花予想には基準として使われています（沖縄・九州の一部ではヒカンザクラ）。



桜の開花予想は、日本気象協会、ウェザーマップ社などが発表していますが、気象庁が決めた標本木で5〜6輪以上の花が咲いたときに「開花」、80%以上のつぼみが開いたときに「満開」と言っています。

桜の名所・名木

各地に桜の名所や名木があり、1本だけでも見ごたえのある木もある。三大桜といわれる「三春滝桜（福島県三春町）」「山高神代桜（山梨県北杜市）」「根尾谷淡墨桜（岐阜県本巣市）」は、どれも樹齢1000年を超えた古木だが、今もたくさんの花をつける。

公益財団法人日本さくらの会は、1990年に日本のさくら名所100カ所を選定し、「さくら名所100選の地」として発表した。

<http://www.sakuranokai.or.jp/information/>



隅田公園／隅田川の堤
(東京都墨田区／台東区)

隅田川の両岸約1キロにわたって桜の並木が続く。東京スカイツリー®も眺められ、浅草観光とともに観光客に人気のスポット。



三大桜
三春滝桜



弘前公園
(青森県弘前市)

弘前藩を治めた津軽家代々の城だった弘前城を中心とする14万2000平方メートルの公園のいたるところに桜が植えられている。日本最古や日本最大幹周のソメイヨシノなどがある。



高遠城址公園
(長野県伊那市)

タカトオコヒガンザクラの花はソメイヨシノよりも小さくて赤みがある。そのため、開花時には山全体がさくら色に染まる。



三大桜
山高神代桜



三大桜
根尾谷淡墨桜



秋田県角館町

「みちのくの小京都」といわれる角館は、城下町の風情を残す町。武家屋敷が並ぶ道に枝垂桜（エドヒガン）が群れるように咲く。桧内川堤にはソメイヨシノが2キロにわたって続く。



静岡県河津町

カワツザクラはオオシマザクラとカンヒザクラの自然交配種と考えられている。1月下旬から開花する早咲きの桜で、花の色が濃い。伊東市、河津町、南伊豆町などで見られる。

文学にみる 桜

ひさかたの
光のどけき
しづ心なく

春の日に
花の散るらむ

紀友則

◀小倉百人一首でおなじみの和歌。作者の紀友則(?~905年)は『古今集』の撰者で三十六歌仙の一人。「光がのどかに射している春の日なのに、桜の花はどうしてこんなに慌ただしく散っていくのだろう」と、散り急ぐ桜を惜しんでいる歌。

▶西行法師(1118~1190年)は武士の家に生まれたが、突然出家して世を捨てた。この歌は「願うことなら、如月の満月のころ、満開の桜の下で死にたいものだ」という意味。「如月の望月のころ」とは旧暦2月15日(現在の3月末)で、ちょうど桜が咲くころに当たる。そして、この日は釈迦入滅の日でもある。この願いどおり、西行は2月16日に亡くなっている。

ねがはくは
花の下にて
そのきさらぎの
春死なむ
望月のころ

西行法師

世の中に
たえて桜の
春の心は
のどけからまし

在原業平

◀『伊勢物語』より。「この世に桜がなければ、いつ咲くか、いつ散ってしまうかなんて心配することもない。心穏やかでいられるのになあ」という在原業平に対して、他の人はこう返す。「散ればこそ いとど桜はめでたけれ うき世になにか 久しかるべき(散ってしまうからこそ、桜は素晴らしいのです。世の中に永遠などというものはありません)」

さまざまの
事おもひ出す
桜かな

松尾芭蕉

◀松尾芭蕉(1644~1694年)は若いころ伊賀上野の藤堂家に仕えていたが、頼りとしていた主君が亡くなってしまったため仕官を退いた。この句は、苦労の末江戸で俳諧宗匠として認められた芭蕉が、主君の死後22年たって故郷に戻り、主君と共に見た桜を見てよんだもの。「さまざまの事」という短い言葉の中に、主君のことやこれまでの苦労など、多くの思いが込められているのだろう。

「十六桜」「乳母桜」

ラフカディオ・ハーン／小泉八雲(1850~1904年)が日本に伝わる不思議な話を集めて英語で発表した本『怪談・奇談』に納められている話。伊予の国の十六桜は、まだ寒い旧暦1月16日に咲いて、その日のうちに散る。桜の老木を愛した老武士が、花が咲くことを願ってその木の前で切腹したからだ。「乳母桜」は、病気の女の子を救うために願をかけて、身代わりとなって死んだ乳母の話。ハーンは、桜には人の霊が宿っていると感じていたようだ。

『桜の花の満開の下』

坂口安吾(1906~1955年)の短編小説。旅人を襲って殺していた残忍な山賊は、桜の森の満開の下を通るとき、いつも気が狂いそうな気持ちになった。彼よりももっと残忍で恐ろしい妻を背負って満開の桜の下を通ると……。満開の桜の木の下はなにか怪しげで恐ろしい。

Explain
cherry blossom viewing
in English!

花見

を英語で紹介!

Hanami (cherry blossom viewing) is a custom enjoyed by many since the Edo period. In Edo (present-day Tokyo), areas came to be known for hanami viewing, many of which are still accessible today.

花見は江戸時代から庶民の娯楽でした。江戸にはたくさん花見の名所があり、そこでは今も花見ができます。

Viewing cherry blossoms is enjoyable in daylight, but also under the night sky. Yozakura (night cherry blossoms) add a wondrous sensation to the experience.

青空の下で桜を見るのは気持ちがいいですが、夜、花見をするのもいいです。夜桜は幻想的な雰囲気があります。

Japan has many types of cherry blossoms. The Somei Yoshino is a cultivated cherry that was artificially bred during the Edo period.

日本にはいろいろな品種の桜があります。ソメイヨシノは江戸時代に人工的に作られた園芸品種です。

Every year, private meteorological companies announce their forecasts of when cherry blossoms will begin to bloom. From January till May, the blossoming of cherry trees (the cherry blossom front) will gradually spread from south to north.

民間の気象情報会社が、毎年、桜の開花予想日を発表しています。桜前線は1月ごろから5月ごろにかけて、日本列島を南から北へと移動していきます。

